

北海道千歳市（国内 84 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 5 年 4 月 7 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境・農場概況

- ① 発生農場は平野部にあり、近隣は田畑や林に囲まれている。
- ② 当該農場は 2 階建てウインドウレス鶏舎 9 棟からなり、発生時は 1 棟が空舎であったが、それ以外の鶏舎ではいずれも採卵鶏が飼養されていた。
- ③ 当該農場は、国内 82 例目及び 83 例目発生農場をそれぞれ中心とした半径 3 km 以内の移動制限区域に位置している。

2 通報までの経緯

- ① 国内 82 例目及び 83 例目の発生に伴い、それぞれ 3 月 28 日及び 4 月 3 日に実施した周辺農場検査において陰性が確認されていた。
- ② 飼養管理者によると、発生鶏舎（通報時 420 日齢）では、通常の死亡羽数が 1 日当たり 4 羽程度であったところ、4 月 6 日に同一ケージ内で 5 羽中 5 羽の死亡が確認されたことから、家畜保健衛生所に通報したとのこと。この際、採餌、飲水量及び産卵数については、異常は認められなかったとのこと。
- ③ 鶏舎のケージは背中合わせの直立 6 段（各階 3 段ずつ）4 列で、発生ケージは鶏舎の従業員出入口から見て奥側から 3 分の 1 程度、壁側の列に位置しており、2 階部分の下から 3 段目で発生が確認されたとのこと。
- ④ 疫学調査時は、発生ケージを中心に上下・左右の数ケージで 1～数羽の死亡鶏が散在していた。発生鶏舎の他のケージや、その他の鶏舎では異状な死亡鶏等は確認されなかった。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場の鶏舎は正社員 5 名、パート社員 4 名の計 9 名で管理されていた。系列農場及び当該農場の間で従業員の行き来はなかった。
- ② 正社員は、それぞれ農場内の 2～3 棟の鶏舎を担当していた。また、パート社員は主に集卵施設での作業を担当していたが、集糞作業やオールイン・アウト時など、比較的大がかりな作業を行う際に鶏舎での補助を行っていた。
- ③ 各鶏舎担当者は、午前中に担当鶏舎内の鶏の健康観察を行い、給餌や給水設備の点検、集卵や除糞などの作業等に従事していた。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 農場の境界にはロープが張られており、入口付近には関係者以外立入禁止の看板が立てられていた。
- ② 飼養管理者によると、従業員の車両や飼料運搬車等が農場に入る際、3 月 28 日から農場入口の動力噴霧器で車両消毒を行っていたとのこと。
- ③ 従業員が農場に入る際は、集卵施設横に設けられた小屋で衛生管理区域専用の作業服及び長靴を着用していた。また、鶏舎に入る際には、鶏舎前室において各鶏舎専用の防護服及び長靴を着用し、手指消毒を行っていたとのこと。
- ④ 従業員の車両や飼料運搬車が衛生管理区域内の鶏舎付近に進入する際は、運転手及び従業員は集卵施設横の小屋で衛生管理区域専用の長靴に履き替え、手指消毒を行い、再度車両消毒を実施していたとのこと。また、鶏糞回収業者が鶏舎付近に立ち入る際は、小屋で長靴の交換や手指消毒は行わず車両消毒を実施するのみであるが、小屋から先は降車することはないとのことであった。
- ⑤ 鶏卵は、集卵ベルトで集卵施設に運ばれる。集卵ベルトは 2 経路あり、発生鶏舎を

含む3鶏舎が同じ経路であった。経路上の鶏舎外の部分は、完全にカバーで覆われていた。

- ⑥ 鶏糞は、鶏糞ベルトで鶏舎外に運ばれ、ベルト車を介して直接、鶏糞運搬車に積み込まれ、処理施設に運ばれていた。除糞作業は鶏舎ごとに5日ごとに行われており、発生鶏舎では通報の2日前に実施されていた。除糞作業の際は、従業員が鶏舎内に入ったあと、通常の出入口の反対側の出口から出て、ベルト車の運転やスイッチの操作をする必要があった。この際、従業員は鶏舎作業用の防護服を脱ぎ、外用の消毒済み長靴に履き替えていた。
- ⑦ 鶏舎ごとにオールイン・オールアウトが行われており、直近では、本年3月下旬に発生鶏舎以外で実施されたほか、発生鶏舎では昨年6月に実施されていた。
- ⑧ 各鶏舎は、鶏舎の床下部にある換気扇で吸気、屋根部分から排気が行われる構造になっていた。ファンのある吸気口には約2cm間隔の金網が、天井部分の排気口には防鳥ネットが掛けられ、定期的に点検されているとのこと。また、近隣での高病原性鳥インフルエンザの発生以降、週に1回程度、吸気ファンに直接消毒薬を噴霧していたとのこと。
- ⑨ 飼養鶏の給与水には、塩素消毒した井戸水が使用されていた。
- ⑩ 飼料タンク上部には蓋が設置されており、鶏舎内のラインを通して給餌する構造となっていた。
- ⑪ 飼養管理者によると、死亡鶏は、毎朝の見回りの際にプラスチック製の袋に入れて回収され、鶏舎外に設置されたボックスに投入後、農場の車両により、農場内に設置された鉄缶に集められ、収集業者の車両により搬出されるとのこと。この袋は、使用後に洗浄・消毒したあと、鶏舎内に戻して再利用していたとのこと。鉄缶は83例目の発生までは83例目の農場の衛生管理区域外に置かれていたが、発生に伴い、この農場の敷地内に移設していた。
- ⑫ 飼養管理者によると、管理獣医師やネズミ駆除業者は、鳥インフルエンザが多く確認されるようになった昨年11月以降、訪問はないとのこと。
- ⑬ 除雪機を近隣の系列農場に貸し出すことがあるが、この時期は既に雪が解けているため、3月以降の貸し出しは行っていないとのこと。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 飼養管理者によると、鶏舎外ではカラス、スズメ、セキレイ等を見かけることがあり、調査時にはカラスが複数羽確認された。
- ② 飼養管理者によると、鶏舎内ではネズミを時々見かけることがあり、ネズミ対策として殺鼠剤の散布と捕獲用の粘着シートの設置をしているとのこと。
- ③ 鶏舎と集卵ベルトの接合部は隙間がなく、鶏舎から出ている除糞ベルトの開口部には、除糞作業時以外はパネルで塞がれていた。
- ④ 調査時には、発生鶏舎内で糞やかじり痕などのネズミの痕跡が確認されたほか、鶏舎外に設置されたネズミの回収容器の中に、鶏舎内で捕獲されたネズミの死体を複数確認した。

(以上)